

繪本  
豐臣  
勲功  
記

五編  
四







繪本豊臣勲功記五編卷之四

目録

秀吉ひでゆき以謀いも南條なんじょう小鴨こ鴨與あ糧りやう

馬うま直家ちか託孤たくこ

織田おだ殿の父子ふし征伐せいばつ田猪でしゆ頼たの

馬うま諸所しよしよ落城らくじやう

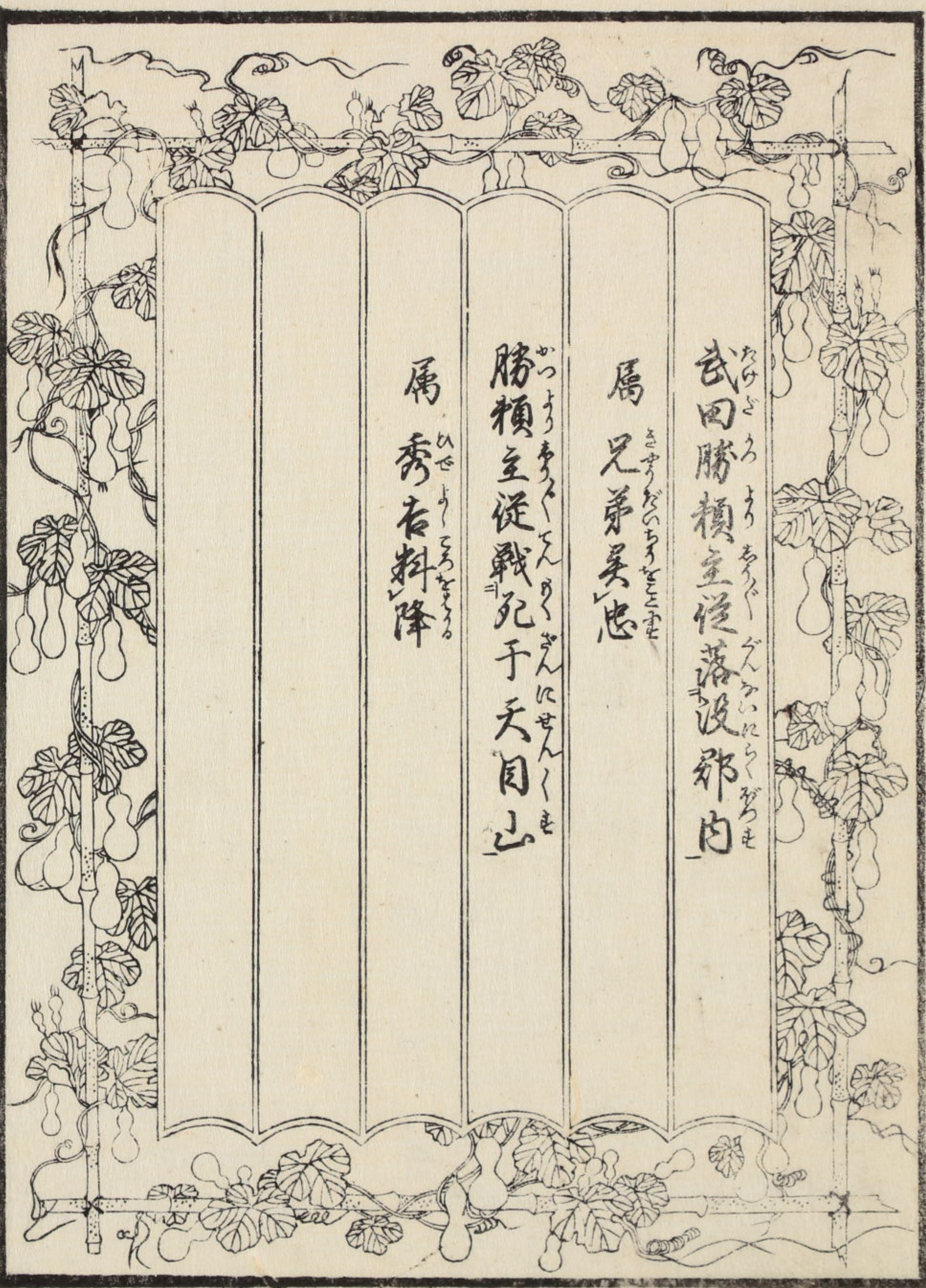


武田勝頼主従落没郡内

属 兄弟吳忠

勝頼主従戦死于天目山

属 秀右料降



繪本豊臣勲功記五編卷之四



江戸 八功舎 徳水刑補

秀右以謀南條小幡與糧属直家託孤

先水の陣ハ小人の所作也。却之欲以軍威を奪ふ。青水の陣ハ英雄の討議にして。自軍の神膽を固ふを以て合戦の爲に徳利あり。實に名士たる右川元春必死を以て陣を結ぶに。茶の湯土喋之重此柵。後ハ門の橋を以て裁り。自軍とてつゝ戦場に進むを以てし。退くを戒めたりし。策画あり。亦も馬野山の地形と謂ハ左ハ渺たる。濱海ハ端石卧嵩の浪ふ穿れ。右ハ城とて考岑。遂に有通ハ橋津の大河あり。容易渉るを以て。只一條の橋ありしゆ。以て裁たを以て。遂にこれが。これに七千餘人必死と思決ける由也。今ハ發初ハ橋にけ

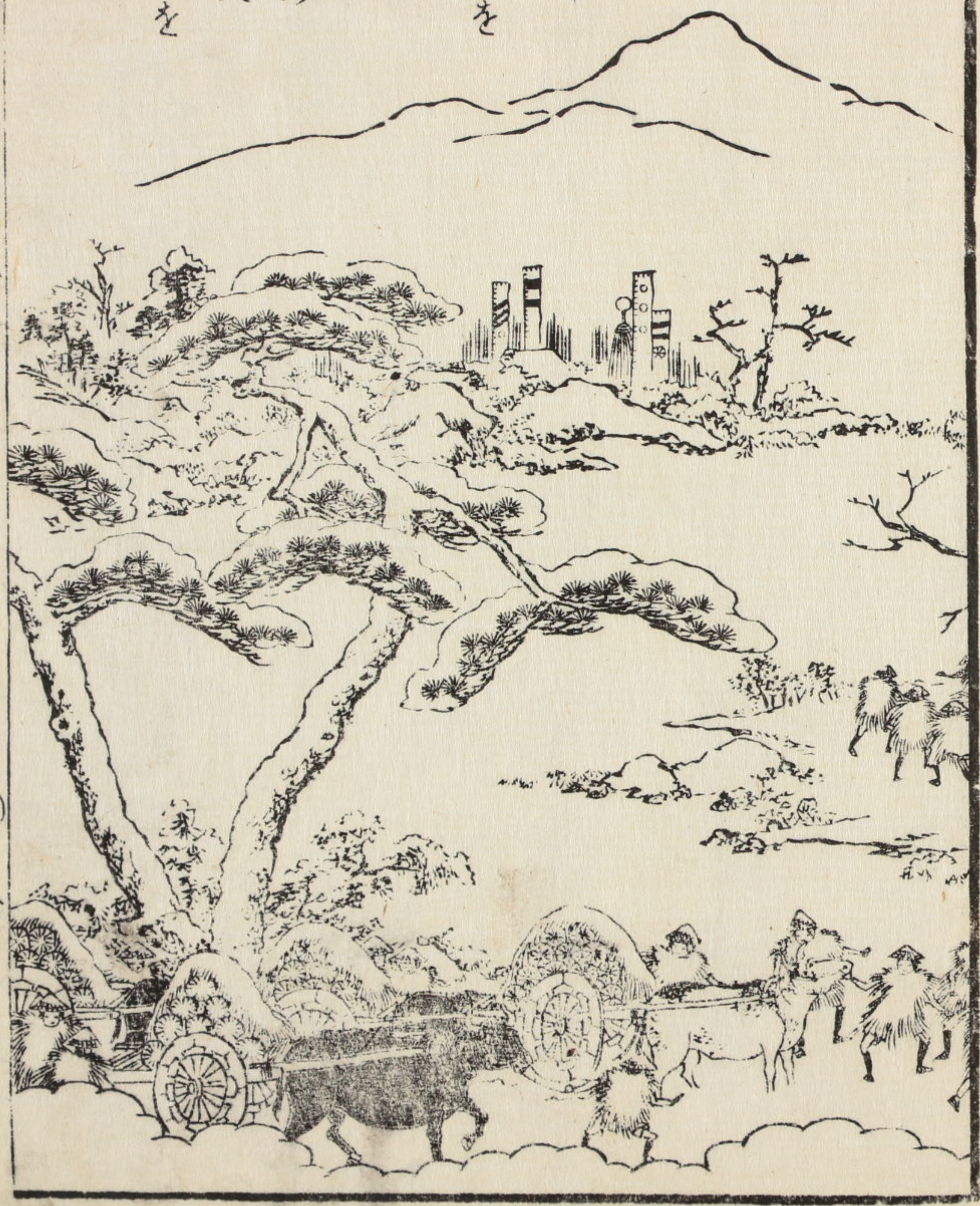


り。然わらふ羽柴秀吉の秋のうちに去難運船の準備をすし  
 め、曉六十一月上の二日、舟の央より雪降出る。胸小秀吉隊を整へ、今  
 にも殿と葛とふ態を顯せし。別子一万の兵士小命じ、小鴨左衛門進先  
 清が凝ちし。岩倉の城と南條伯耆守元繼が居城なる。羽衣の面  
 一を指を納させたる。毛利家杖塞の兵士皆へ眼着これを見るといふも。  
 秀吉の大軍猛威を振ひ、今にも進み陣なりければ、これ小怖して後  
 戦せ、遠圖を好し、と思の隨ふ。去難あり、運納たり。秀吉今、氣  
 煩中、先隊の備勢を退收し、指揮小隨ひ前隊、次身に去し、操  
 收し、吉川の陣ふ、秋をより、食残死むと覺形なり。當夜のまじ  
 も、腫り中らび、夜の曉去を待盡し、卯天をくむる不ぶ。羽柴の宿  
 勢、次身をうつく。隊仗を操りたる、成祝て、ととやと将率奉を振り

半色る頃中までも、候くと待たれども、秋を更し、敵と出む。兵糧をよそ  
 友城へ、秋のまに運船なり。其奉を徹果せければ、若び退陣し、  
 由急吉川勢ハ案に想遠し。又多ハ去難を納ん、あふ攻下る陣せし  
 けるもの。新かめくと秋まじ、あを満懐みれと罵れども、今更し、死  
 中りも無く、只徒空に秋陣を脱、拒てを在たり、る。浩く、る程に秀  
 吉ハ羽衣石の鼻小使つさせたる。先隊の勢を退收せ、退陣せん、あり  
 たる血氣の勇、十備本意を失ひ、いぬ此、し、て我々ハ、勝利十分なる  
 其の成、みどろ、軍を退さし、ゆやと罵るもの、あり、る。小と秀吉、喘る自  
 去を制して、潮正しく、若て曰く、秋ハ七子、自方ハ、四万、増く、自方ハ、地、の理、を  
 得く、此、山、上より、繩、筋、を、六、勝、利、ハ、必、定、か、り、ぬ、危、な、れ、ど、自、方、も、大、軍、糧、  
 亡、ま、べ、し、吉、川、勢、ハ、寡、な、れ、ど、も、人、の、和、を、得、く、死、不、畏、の、去、り、。操、て



秀吉  
謀略を  
りつて  
岩倉  
羽衣の  
兩城へ  
兵糧を  
贈る



豊臣記五編卷之四



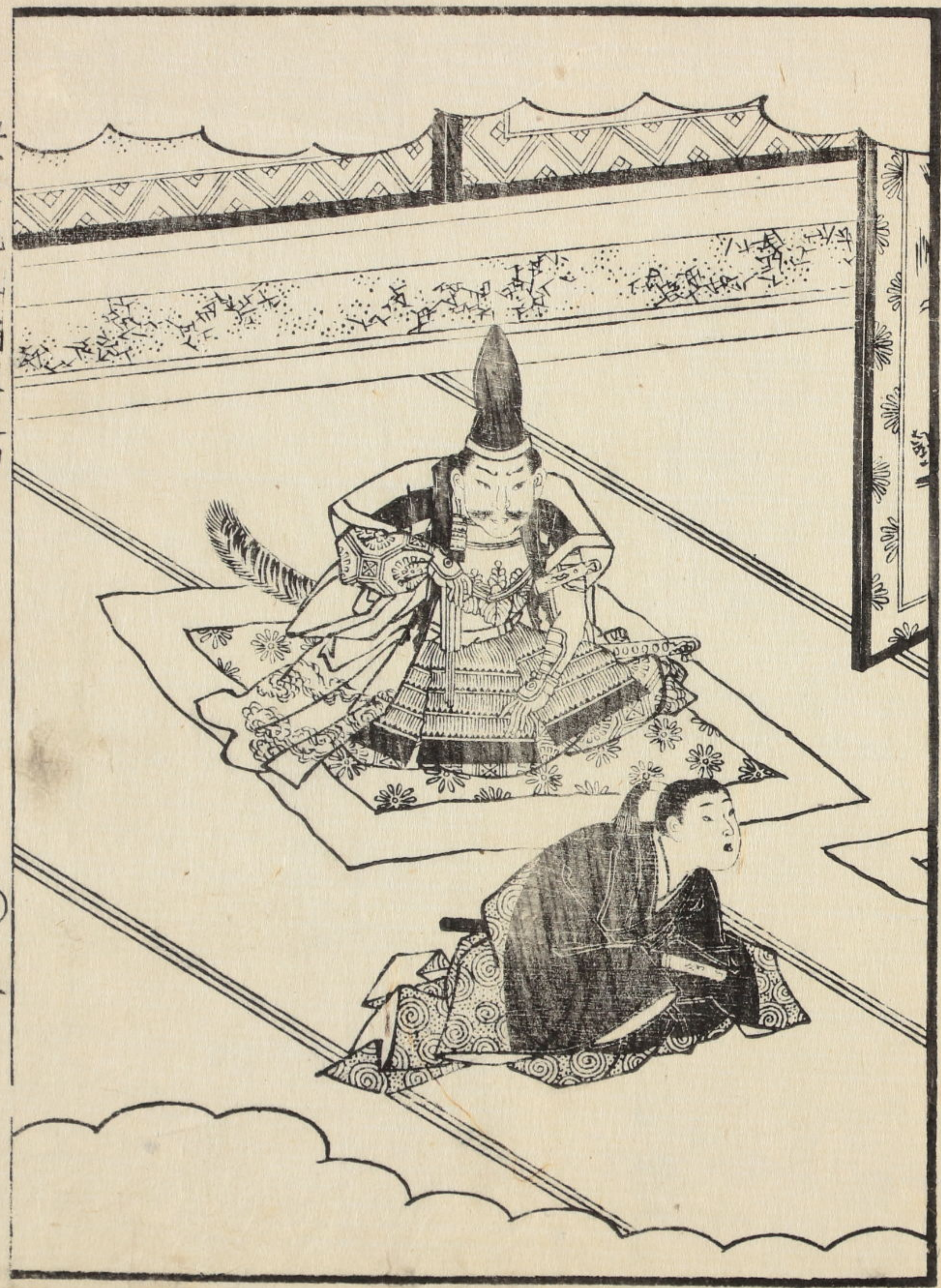
豊臣記五編卷之四



有路の橋を巧裁し背水の陣不覚期を決し死地に命じて生れ求む  
 然れば一騎十騎不當らん。これを以て素慮バ自兵二万も戦死を  
 慮し實に小利大損の令我。縦令元春を殺さればとて中園平均  
 とつふも河を渡れ珠八輝之隆系侮。南方の諸勢を引率して雲州  
 富田まで出馬すと注伸ありてこれを駭。渠備吉川と一隊不あふ吉兵  
 一個も生るの道なし。之を慮の合戦ハ將するもの慎むところを  
 汝候よりば勇氣に流り軍事に搦ることなればは歳ハ速地に陣  
 陣なり。春春拵て征伐もとも遅く。事十分は満る胸ハ突かれり  
 生むるあらん。堅固の名取を攻陥し。固備を平治せし事ハ後不發  
 以過分の功とふ。これを以て各徳に明夫ハ陣陣と決着せよ。それ  
 小治さる。橋頭家政預くをゆるふれば。三子餘勢を總領し。將衣

岩倉兼成城の杖翼となりて。吉川勢に對陣せよと計議を付與し。十一  
 月六日とらる。總軍を纏めて馬野山と退拂ひ。秀吉もさう。教廻し  
 深く然と退陣し。されば吉川勢も大事を執り。逆段もせざる。勤  
 り。形よりなれば元春も。死地を去る意味し。つは地不在ても。蓋な  
 久。技藝に武士と強し。馬野山の陣を退去なり。然るに荒原守秀  
 吉ハ伯別之地を退拂ひ。姫路に歸陣せん。むるところへ。後前ハ飛脚  
 到來して。浮田重家重病不犯され危さうと告る。不周て直地  
 不備前へ。費是せられ。墨山の城小到りて。直家分病を訪ひ。けし。ハ  
 和泉吉大も。歎惋荒原守秀請。迎其懇切を。感謝し。固則平治  
 の悦飲。軍功を記を感稱して。後我存命の期。即りて。終焉。近江  
 にありぬ。蓋なれば。家督の詞状。ハ出。養子與。希。基家ハ既小





命期を  
量り  
浮田直家  
八郎丸を  
秀吉小  
託す





將漢小我死す。嫡子有りたる八郎ハ未初年より彼地の國を總  
 領する事と覚心す。こまごまの事を且夕々懐煩ひ在る時彼地  
 三づろつ傍れ。こまごまの事と覚心す。こまごまの事と覚心す。  
 愛憐し玉を六百生を窮の飲情なり。傾騰なり。時をたれ。秀長も  
 其心中におりいなり。やとて不夜の釋なり。こまごまの事と覚心す。  
 一、領て寶子の八郎九八年浮田人質となりて秀長の子にありけ  
 るが。遠道出陣のうちにありて。直家病氣と聆りり。秀長これに値  
 遇せんと目今遠城へ往ひたる也。即地は八郎を呼出。又又對面を  
 してめて。君びを家小潛す。こまごまの事と覚心す。こまごまの事と覚心す。  
 かいこへ君熱切小我死す。家名を續げせま。こまごまの事と覚心す。  
 らふま。こまごまの事と覚心す。こまごまの事と覚心す。こまごまの事と覚心す。

瀕りぬ。所希有信惠にこそ。是下の指南小被受。呂望管仲を師と  
 する小精を。嫡児が大孝乃翁が執事謝する。おれとく。おれとく。おれとく。  
 弟向後百年の死。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。  
 ともあり。序時も深意を會む。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。  
 一、その後ハ。荒布守が指揮小随ひ。可堪肯く。おれとく。おれとく。おれとく。  
 けり。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。  
 字を假ひ。直しく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。  
 小任ま。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。  
 年。天正十年の正月九日。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。  
 に率をせり。荒布守約小遠。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。  
 小酒。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。

豊臣評伝 緒巻之四

五

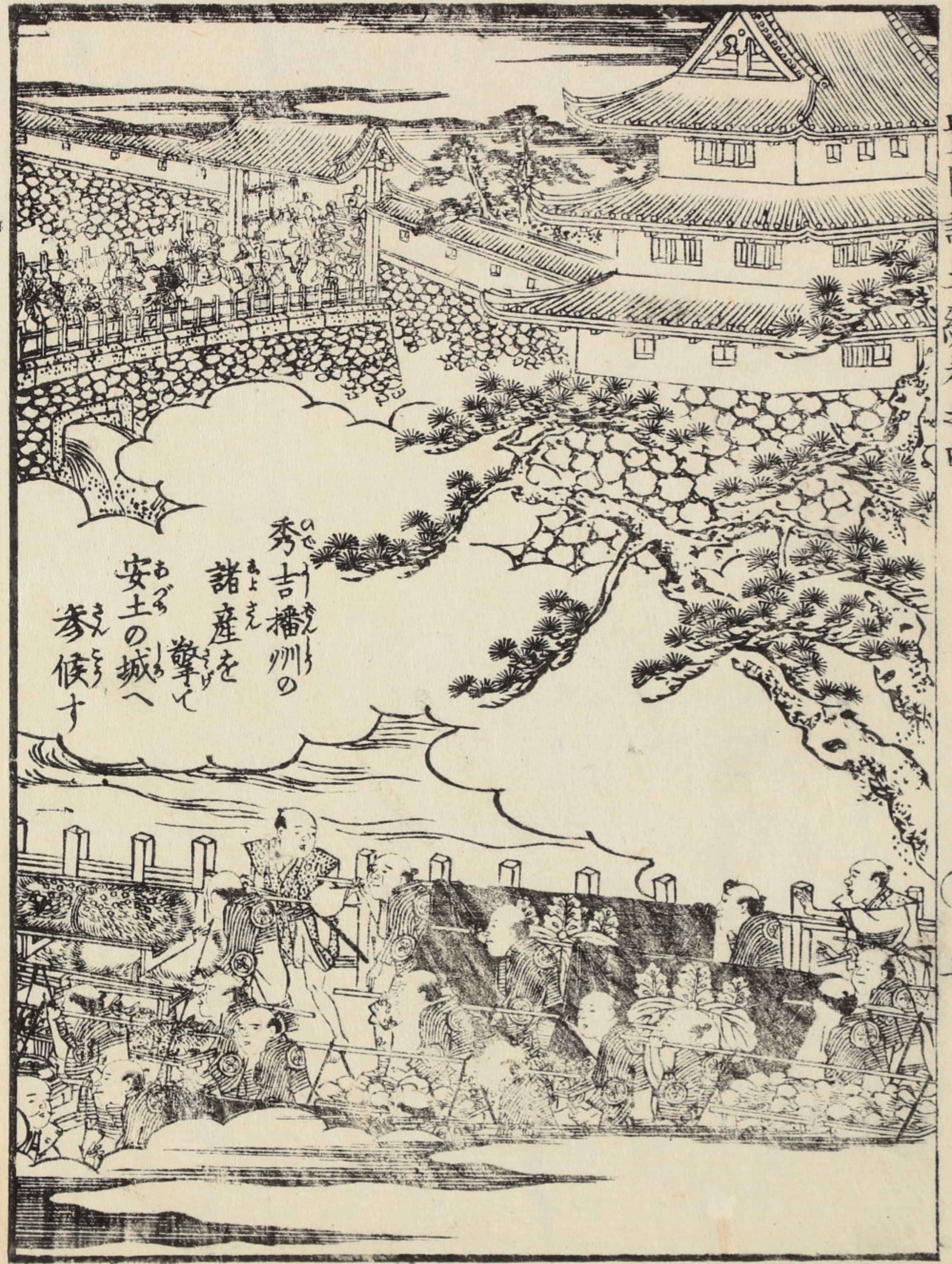
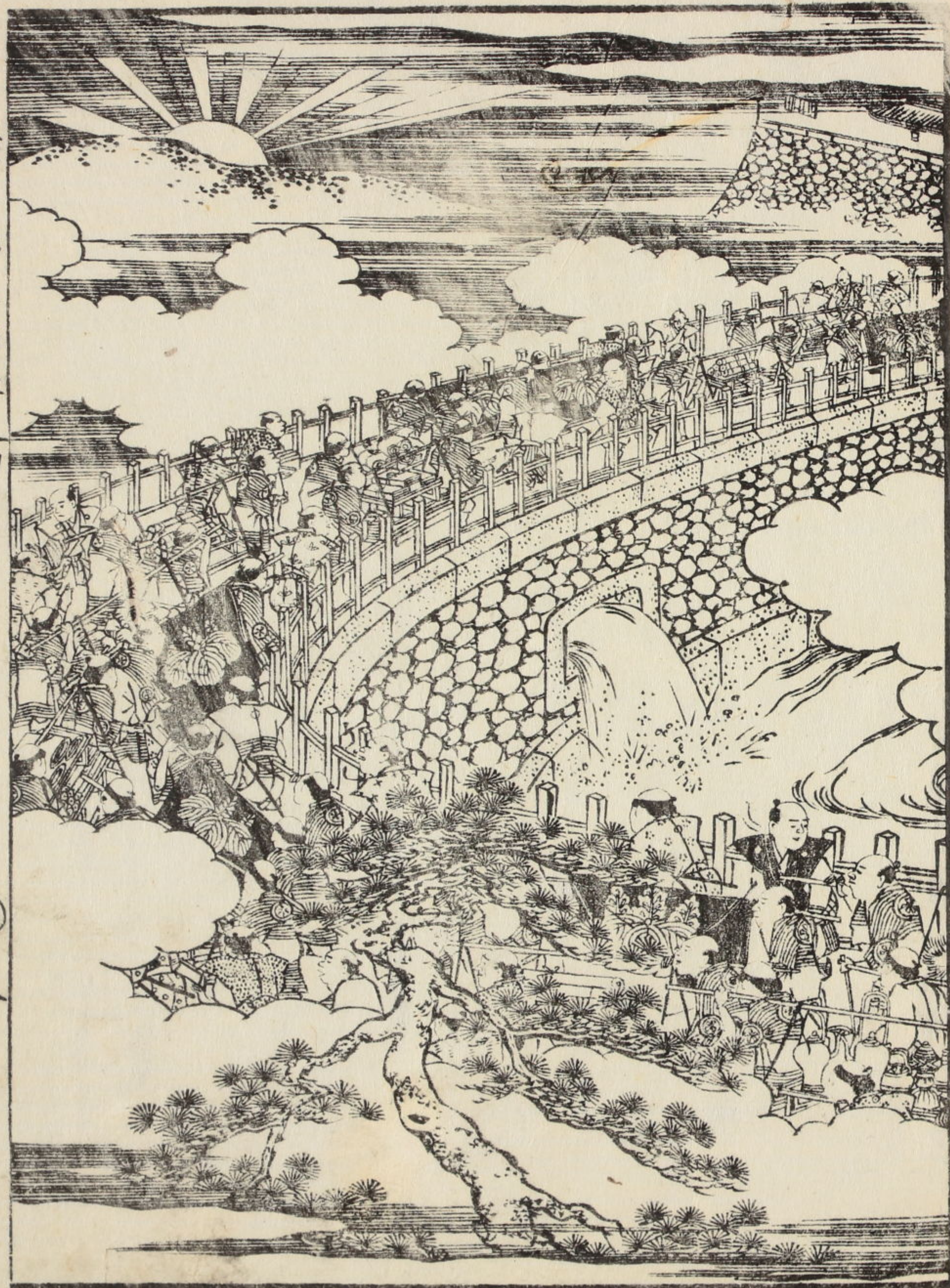
時に隆道の探題三徳中  
約書因村を前の據りて



後若狭摩呂兵七十七、備前筑前若狭長門國山の城をうち取らば、不日に播磨姫  
 路に帰陣し、安土へ使者を遣はして、國別平治を注伸し、これに信長  
 公より檢使として、池田信輝の嫡子勝九郎信之を姫路より、軍督武功  
 の御賞威と次序をとりて、淡州を平治せよとの詔意あり。秀吉これに  
 承け、長門軍事の疲勞も厭はれ、同月十七日、七百餘騎以て淡路  
 へ推進せしめ、城へ使者を遣はして、降参の事を勧めし、丹波河津  
 路の兩國の原末之好の領地を奪ひ、安土殿の送使は河津に送る。三好  
 の一族三好山城守康長は、先年より秀吉に降服し、信長公降参し  
 て、頗功勞あり、これの功を以て、一昨年、秀吉の甥秀次（中村経助男）の妻とす。三好孫七郎と稱し、其後、又誅也とも、三好を名の  
 らせ、三好康長と稱し、入道と稱し、と号する。是の如き、この城故に、後りて、秀吉康

長熟懇なれば、遠道淡州征伐にも、素内者として、付分され、則ち秀吉指  
 圖して、國人衆を降参せしむ。これによりて、大坂へ合戦せしめて、羽は未だ  
 歸彼在。中ふ統く由良の城、且安宅河内中とす。ありしが、我意に猶  
 里く、款對し、けまひ、池田勝九郎と計議を合せ、舊地に攻起る。不  
 小、忽ち降参し、逃びなれば、これを併して、淡州一國を平均す。十二月二日、  
 秀吉諸軍を還修め、播磨姫路へ帰城あり。同月廿日、歳暮の漸れ、  
 己、舒んと、それく、準備おぼろしくして、廿二日に安土へ着き、内府（北條長右衛門）  
 公に、欣悦し、かひ、菅若九右衛門、堀久右衛門と、秀吉に命せざるや  
 う。今年、諸軍の軍勞を殊ともせ、びして、奇特の勲、信長公、堪べが  
 らば、今、昔の本下り、明日、饗宴を賜ふべし。預て、八、く、對面せしめ、  
 つ、追慕し、く、る程、今宵、八、く、用譚、と、漸、の、を、被、せ、ひ。





秀吉播州の  
 諸産を  
 安土の城へ  
 参候す



巨開殿不秀君を招かざりし。虎顔いとをらるる。常苑前よりくこを  
 来しと开も酷暑の首より。今凍をの尾まき。右動まき。忘りて。を  
 遙くと登城せしこと。予が満是うたり。先魚よと尾後れ命と。金五玉  
 盤をうらぐり。因伯二州の奇を猛我。とはぬむ。か又聆し。これ朝  
 登城はるべし。夜彌に遠びく。拜謝を賜ひぬ。備も秀君遠遭の登城  
 八景。登城名類多し。ふりて。八声の難と齊。一奉行。下拜して。齋  
 膳を以。其品くを。調中。滑。中。國。之。河。太。刀。一。口。上。右。の。報。子。三。子。友。吳。蜀  
 の。綾。羅。二。百。幅。西。國。産。の。鞍。馬。十。匹。兎。抄。紙。三。百。葉。室。津。の。韃。鞨。二。百。枚  
 明。石。の。干。鯛。子。苗。野。里。の。襦。袢。數。百。口。毛。紗。の。脚。章。魚。飾。摩。の。掃。深。尾。上  
 の。松。露。み。ど。り。弄。不。其。負。あ。く。三。千。石。都。て。香。製。の。瑪。脚。盤。に。恭  
 く。こ。を。載。せ。彼。率。軍。に。扛。擔。す。掩。巾。の。通。へ。妻。の。野。不。萌。る。子。系。れ。負。ふ

り多く。心懸に。拵。行。約。登。へ。も。河。門。内。入。果。れ。と。後。より。扛。出。ま。彼。率。人  
 山の麓の。洞。進。不。に。足。を。搦。く。や。あり。右。府。遠。不。夫。也。より。河。流。を。う。ひ。噫  
 大量の。花。石。が。始。まる。もの。を。惜。大。な。れ。を。士。欲。祝。よ。と。大。笑。し。ひ。項。を。控  
 して。お。た。し。ま。は。た。右。に。秀。君。出。仕。し。た。れ。河。邊。無。う。て。吟。若。藤。不。波  
 岸の。画。軸。大。海。の。茶。道。を。ゆ。ふ。庄。嚴。し。せ。陪。饌。よ。は。く。個。々。に。六。帷。注。又  
 右。府。子。づ。う。河。菜。を。君。と。販。揚。り。其。の。後。く。ま。ぐ。の。河。門。譚。河。を。せ。れ  
 帰。國。の。河。拜。謝。し。ま。た。る。河。國。次。の。總。力。を。賜。置。る。是。ハ。又。彼。後。秀。君。河  
 ぐ。拜。領。ひ。思。意。を。謝。し。河。拜。謝。ま。じ。く。同。臘。月。廿。六。日。姫。路。を。當。し  
 て。を。帰。ら。ま。さ。り。

後田教父子延武河勝頼属諸所居城



宋の太祖虎繒帷幃を講武殿に設け、紫貂の裘帽を被て、朝小出  
 友吉を願て曰、我被服斯の如くあれども、鞍尚を穿ぬる。況や征蜀の  
 將亡を乞ふに、征蜀の大將小裘帽を被り、八是君臣の極情なり。然れば、  
 宋秀吉に、播磨姫路に在任して、春を迎ふる天正十年、國中の諸士功  
 臣、金急ぐ登城して、新年の笑を述ぐるが、秀吉別て、去年の軍勞  
 を厚く謝し、區く小功を賞し、なれば、諸士莫く同様にする。しるやう。  
 愴妻の目を送り、安座し、金骨鎗筋を供し、むる。眞加に申すに、お  
 がゆり、速く後赤小出馬し、ゆひ。児孫も、ゆひに、標在款を、遊ぬさるや  
 と、初めたるほど、秀吉、紫貂が、綾氣をつく。これ、小を穿ぬる事、の、此、お  
 り。安去、殿、赤、四の、若、建、於、次、九、秀、務、君、に、遠、春、具、是、の、被、初、し、る、今、諸  
 勇士の、初め、不信せ、秀、務、不、初、陣、せ、さ、せ。児、孫、の、款、焼、を、征、伐、と、さ、し、と。

まうまに、衆士、饒、飲、ひ、登、り、所、准、依、を、さ、さ、し、と、一、万、八、千、の、衆、士、を、率  
 し、正月、廿、八、日、を、り、く、姫、路、を、う、ち、起、累、山、小、着、陣、し、て、翌、日、走、り、去、り、  
 推、進、せ、植、木、出、立、を、後、赤、小、出、馬、を、攻、め、し、て、遠、小、城、を、搦、破、り、而、池、小、大  
 を、う、け、燒、拂、ふ、と、あ、ら、く、姫、路、に、帰、城、す。慕、び、中、國、を、征、伐、せ、ん、と、軍、儀、を  
 之、更、さ、る、處、に、安、去、の、飛、脚、到、來、せ、し、事、に、遠、春、信、州、の、大、守、赤、小、出、馬、に  
 義、昌、本、君、後、仲、の、後、胤、に、し、て、世、を、傳、け、し、事、也、、遠、小、城、に、在、り、馬、に、乗、り、、武、田、小、吉、の、子、也、  
 方、と、か、る、に、り、り、武、田、勝、頼、征、伐、し、て、右、府、赤、小、出、馬、二、月、上、旬、甲、州、に、進、  
 發、し、る、と、さ、し、て、款、焼、の、諸、城、を、攻、め、し、て、武、田、の、逃、退、を、降、り、て、武、田、の、滅、亡、を  
 以、て、遠、小、を、り、遠、中、を、さ、ら、り、く、秀、吉、に、兵、馬、を、練、く、相、等、す。甲、州、退、治、  
 終、る、と、武、田、中、國、征、伐、の、所、出、馬、なり、と、若、る、を、秀、吉、赤、小、出、馬、に、武、田、の、後、胤、に、し、て、世、を、傳、け、し、事、也、  
 の、思、養、なり、君、赤、小、出、陣、す、し、る、と、の、を、其、の、馬、に、乗、り、て、安、國、と、自、國、に、座、武、田、の、後、胤、に、し、て、世、を、傳、け、し、事、也、



して在らざるや急ぎ所敷勞に奉候まゝと淺野長政田共餘の諸士を  
 悉く留守にせしめ。送者には加藤後清の勇兵二百餘人と跟隨し三月十一日  
 せりく攝州飛騨を渡りて却て既養ふ赤甲信野後の大守。或曰大膳大  
 夫時信入道信玄の日本を雙の猛將にして。英名曰海に轟くが過日天正元  
 年の四月。冬川の陣不來去あり。其子勝頼世業を續く曰苗圃の大守た  
 れども長坂赤松の倭兵を愛し。急行日に増長しこれに誘代のおもこれと  
 然教傳言されども更に用ひむるは是ふより賢兵漸くをぶら。討邪  
 の事ハ頼をりて集族を討めり河縮らへ猶不亡國の兆はれ忠臣功をこれ  
 と惜り。馬場山懸内後仰ハ長藤ふおいく我死を。それのそへび領國の  
 諸士庶民。多勝頼が邪行を憎む別心まるまきくはるび中に就て信州  
 本曾の領主左馬頭義昌ハ。或曰家二の幕下なりしが勝頼の逆道を恨

味ト野心を養へて。或曰家二に帰せん。苗本久去勝の佐人。不屬て淺草に  
 到り。降参を頼ひ。甲州征伐の魁せんと云々。岐阜の大至中將信忠  
 遠事を又に詔へんを。信長收喜し。かめりも。其ハ義昌が真偽をあやむ。  
 人質を得る期盟を固ふ。若して休戦の準備をなれば。備又本曾の城中に  
 千村左衛門といふものありしが。逆念をりて甲府に走り。義昌謀殺せんと告げ  
 るふを。勝頼大に驚怒して。或曰元馬助。神保治給が補に七千餘人の兵を  
 を授け。不日に本曾を攻段し。義昌頼と期したれば。吉原養堂半の殿を  
 に深拘。只一戦小勝利を以て。或曰の二将を返返と。後ふおいく曰希勝頼  
 中より憤怒不堪む。天正十年二月二日。嫡子吉原信勝。孫六入道信連  
 と殺して。其勢二百餘人を率し。甲府を襲馬し。信濃守。上野原に着  
 陣と。然して諸方の城に去を分ち。討撃する。是より伊奈郡を去るに



仁科の弟伝盛（傳盛の弟） 大橋の城への日向大和入道宗英（宗英の弟） 堀尾の城への  
 朝比奈駿河守田中の城への蘆戸下徳吉守人との備前を頼成て堅く守  
 らせ備前の城への軍兵のくみ六百づつ嚴しく守城せよと命ぜり  
 たる頃義昌の敵田原又子の導指して征伐の事を怠るる由忠大  
 將軍信長二月四日に安土に進發岐阜城中に入玉の備前中將信忠郷  
 にひる万餘騎を引率して本居に突向し右大臣の七万餘騎にて修  
 奈はより向せしむるに金森の弟八千餘騎を飛騨より引入て遠  
 州の加勢の二万餘騎より後河原より奮投し其外北条の二  
 万餘騎よりひくりに甲府を當り攻投たり中には中將信忠郷の同月十  
 二日に津出馬ある先進に瀧川左を將監河尻與を清水野道物候ふ

の姉妹勢敵に殺投し下條伊豆守が疑せしむる佐川伊奈の城を攻陥し  
 殺戮しつと獲進め建徳勢にや怖るる同國松本の城を小笠原頼朝  
 右史信賴たしませぬ敵田原又子と謀りて國中を業用しつれ國平八郎  
 兼務義清内膳より引入して飯田の城を西條頼朝と一統に攻め城兵を  
 よそ二百餘人を逃抱て殺投し武田田原頼朝の弟と略しり心中甚だ惱  
 れして軍議一決せりしう防衛の實慮も謀慮も上系に在陣することを或  
 回の運に究みれ左右を降し軍士皆決死に奮發しつれ危後をりあ  
 十がかり然るも同月十六日本居右馬頭尚本久を誘ふ李良兵坂より  
 進來りて本居峰に殺盡せんは武田方に今福筑前守七百餘騎より  
 防戦せしつと遂に本居輪放走す時本中將信忠卿義昌が軍功をひひし  
 らひ津加勢を多く賜りつれ本居が嶺を奮戦して指梗を系に陣を結



び掘墓をハ控尻の城より。多田治純右衛門。横田基元。是地  
 を遮り。日教を累ぬ。信忠卿に。諸軍減率。岩村より。推進。喰畑の  
 殺不を。北城より。平谷の。巷子陣を。居る。新と。所より。大橋の。城を。食意  
 く。藤行より。由志。守。入。道。宗。英。倅。も。做。形。な。く。て。退。散。し。た。れ。ハ。河。尻。肥。前  
 ち。に。は。城。を。ち。と。せ。土。地。小。飯。沼。一。攻。蒐。る。茲。に。河。尻。の。城。を。穴。山。入。道。梅。吉  
 の。勝。頼。を。深。く。怒。む。事。河。の。邊。に。叛。して。飯。田。家。に。降。参。し。敵。討。の。意。を。顯  
 一。々。由。志。持。船。田。中。の。城。を。と。り。諸。防。禦。過。半。ハ。逃。散。す。窄。城。の。兵。會  
 敵。と。なる。これ。より。て。四。布。務。頼。飯。沼。の。陣。拔。指。小。も。留。在。得。比。殘。兵。三。千  
 何。人。を。獲。め。甲。州。新。府。一。邊。退。還。す。此。月。二。日。時。中。將。信。忠。卿。三。月。上。巳。の。日。也。も  
 つ。く。天。龍。門。を。推。決。す。是。ハ。東。海。道。の。川。上。に。七。分。今。見。路。系。を。本。陣。と。し。瀧。川。左。を  
 水。野。監。物。齋。藤。齋。倅。を。魁。隊。と。す。是。を。の。城。小。推。進。す。并。も。遠。城。を

前。面。に。非。持。門。の。急。流。を。背。據。東。西。南。の。三。面。ハ。峻。嶺。峻。く。深。澤。え。こ  
 れ。ハ。頗。要。崖。堅。固。なり。然。ど。も。小。笠。原。信。頼。が。淺。瀬。を。導。て。中。將。殿。の。諸。軍  
 と。新。中。に。涉。ら。し。め。面。道。背。流。面。方。より。礮。地。小。攻。蒐。る。城。を。ハ。武。勇。の  
 登。あ。る。仁。科。め。舟。信。登。れ。バ。諸。所。の。自。方。の。離。散。し。て。此。多。遠。の。一。唯。一  
 座。孤。城。と。せ。し。ま。く。形。勢。も。み。た。れ。ど。此。も。怖。る。氣。を。な。く。矢。石。を。飛。し  
 て。防。戰。す。中。に。も。春。日。河。内。也。系。集。人。倅。が。二。百。餘。人。ハ。既。小。我。死。と。免。難  
 し。た。れ。ハ。面。門。の。城。戸。を。推。開。し。面。方。右。不。肯。以。突。費。し。飯。田。の。勇。將。齋  
 勝。藤。圓。平。ハ。糸。織。に。謀。合。烟。火。を。飛。し。て。我。ひ。を。る。遠。响。中。將。信。忠。卿  
 ハ。背。流。の。方。向。を。せ。ら。る。が。城。中。嚴。く。遮。り。を。齋。と。く。自。軍。を。馬。成  
 統。と。せ。麻。布。牆。一。重。擊。破。り。礮。刀。把。り。自。軍。を。標。ぎ。遠。一。城。を。破。ら。ざ。ん。ハ  
 甲。信。二。國。と。い。は。る。獲。め。平。ら。ぐ。と。す。と。攻。陷。せ。快。進。め。と。願。る。を。り。に。指。揮





とやまごのしんしけ  
小山田信繁  
あひのび  
情兵を容て  
ちん  
勝頼の陣より  
いさあち  
入質を奪返せ

且つ...  
...  
...



豊臣言五...  
...  
...



一玉ひ馬誘放ちて探小柱着系投りて懸せられ。これ方巨と諸勢一  
 駿に嘯く聲しと攻着たり。城を攻むを破らせしと。身をて撲と。柵の  
 防ぐといつども多勢ふ寡勢。終よ一方を推破りて。正先に系入門の中  
 將敵の危垣なる。山口小辨依り本清彦。肥前以ハ根系治右衛門。こがく  
 せし金豹の山野小放る。秋風して西南八面に吹て遠き。當的一个も  
 らびて。食とちとち突殺せし。これ小繼しく。城田の諸軍士。諸方を破  
 りし。礼入し。これ仁科小弁佐盛も。天運今これまきなりと。本丸小投て  
 妻子を殺し。胆十文字に捲到て。英名氏此城小佐めたり。差ふ城を諏訪  
 右衛門の盛佐といふもの。妻に鬼綱と呼て。怪力を色色の婦人あり。城方敷  
 北と恥し。も。花は落葉の舖し。黄熱小指の祇場折白練の納と  
 驚か。二尺九寸の太刀脱殺め。本丸の園風お。開地。罹判の像く走

出くを併る武者を七八人。胸く間小斬倒し。或ハ絶殺し。掘害し。多勢  
 の中成右佐佐木健に勇を奮ふ。柱をたぐり。鬼綱も今これまきなりと。  
 刀を返し。はふく。身控願ふ。掘貫さ。たたる。怪不預亡し。ハ。獲りし  
 由ま。未嘗有りたり。他軍も自軍之精。懐し。其外。城中有名の勇  
 士三十餘人。戦死して。骸を扱こと四百餘。級。逆に。を。高城。ハ。ハ。前。獲  
 後虎を遁る。強。去。甲府を當と。を。走。り。り。

武田勝頼主従。落没。那内。馬。兄弟。弟。吳。忠。

法令明。つ。つ。响。ハ。これ。不。証。り。て。と。も。止。ま。り。て。これ。ハ。撃。鼓。搦。ど。も。遠。く  
 とも。武田に属する。諸防の城。金。落。去。て。山。河。色。と。も。投。む。危。さ。り。こ。  
 高。を。遠。流。も。虚。城。と。り。り。て。各。甲。府。に。退。き。たり。差。中。將。信。忠。卿。ハ。軍。を  
 進。め。信。州。飯。訪。の。上。の。系。小。津。を。居。られ。也。地。も。甲。府。一。礼。入。せ。人。と。ハ。これ



によりて甲州の騒動あつてなれば一統宰家の門も妻子を伴て  
 准備するのふれ軍儀の更にかつて機含う。猪頼の嫡子を并信  
 勝正平儀に十六歳迄有せざる柳瀬花領兼相をとも最牌を父の  
 前に進せ出。梅花の唇濡して。噫塞しや武田の武威自軍の城より  
 織田のため不段陥され當家の滅亡極なりぬ。天運盡く戦場に死を  
 受武門の平生勇士の望むところなり。然るも居城を退きて山若林野  
 身を躲し。狼狐ととも名代河これ人の朽骸ささるてとくもや。兵速  
 地ふ先祖より相傳つる之楯の鏡を焼棄。漆く腫れり。又と東へ出るを  
 陽より真田安房守昌幸任川上南上州猪形かして言々あり。太府殿のおが  
 したち。槍大將の勇氣ありて。獲すくいなごも。まど所生害の期ふあり  
 び。死に難くして。易く。生に易く。死に難く。最難く。一應此地を河邊ありて

乃臣が城居る上州君妻に投せし。運運の時を待つ。ふく家名を相續  
 あらん。と。先祖に對して。報孝分り。め。君妻の城ハ要崖固牢。名譽美  
 もまら。多かれ。ば。二年ハ牢城。易し。東西ふ武田の餘頼を。裏め。偷使  
 一殺して。會替の恥を言ふ。んこと昌幸が方寸にこそあり。其ハ其端小  
 室の裏城を。持固めて。陥され。これま。自方の幫助と。なれり。河邊を  
 く。け。府を。退。と。君妻の城ハ。河。折。折。お。ま。と。最深。切。く。佳。め。り。ふ。と。猪。頼。を  
 とも。安。途。な。し。と。つ。君。妻。ハ。越。く。危。し。と。く。中。昌。幸。を。被。城。ふ。は。と。し。  
 し。牢。城。の。准。備。を。せ。と。せ。り。猪。頼。妻。子。流。頼。を。伴。供。し。君。妻。の。城。ハ。越。り  
 人と。輜。輿。車。馬。を。調。の。ふ。所。ハ。郡。内。の。城。を。小山。田。左。兵。衛。清。流。信。頼。あり。これ  
 を。障。つ。と。日。と。く。上。州。も。君。の。領。國。な。れ。と。も。大。祖。君。新。君。と。り。連。綿  
 と。起。業。の。地。と。る。甲。府。を。妻。と。外。に。披。る。べ。た。處。な。し。我。領。地。と。る。郡。内。と



七要産嶺一三城廓ふれ。石人今ま。上野まを。零を。ふれ。乃。産。つ。た。  
 郡内。の。城。に。到。り。を。り。く。款。を。防。が。せ。り。い。ふ。者。く。怖。る。り。ゆ。ら。り。と。こ。こ。と。  
 ひ。保。む。る。其。心。々。この。信。誓。ハ。既。ふ。誠。回。家。以。属。し。る。由。也。今。務。頼。が。首。成。  
 提。く。る。者。せん。と。お。も。ひ。し。ふ。甲。州。の。地。を。出。さ。せ。り。と。新。ハ。款。三。計。り。し。る。の。  
 あり。此。一。言。を。聆。く。務。頼。心。惑。ふ。く。決。し。け。り。長。坂。長。田。二。同。合。を。討。ふ。小。山。回。  
 駒。し。た。れ。ハ。長。坂。を。中。り。も。其。意。を。た。り。務。頼。ふ。者。く。い。ふ。中。り。真。田。ハ。當。家。の。  
 幕。下。み。れ。ど。も。僅。に。三。代。受。継。さ。る。の。も。小。山。回。ハ。譜。代。の。古。先。以。て。不。斷。重。せ。  
 の。長。家。り。ま。り。と。吾。妻。ハ。他。國。り。く。郡。内。ハ。た。自。剛。り。他。國。に。行。せ。玉。  
 り。り。登。く。郡。内。一。同。を。の。と。誠。し。や。ふ。理。を。舒。た。れ。思。ふ。も。遠。城。小。同。ト。  
 忠。義。の。真。田。が。駒。は。背。れ。く。非。賊。の。小。山。回。に。同。意。り。人。運。の。渡。満。こ。そ。あ。  
 こ。り。け。也。既。に。落。行。と。れ。ふ。味。ま。く。本。曾。義。昌。が。人。質。を。い。め。り。て。謀。叛。

一。一。の。人。質。二。百。餘。人。を。燒。殺。し。小。山。回。が。人。質。十。餘。人。自。身。に。妻。  
 室。伯。母。妹。棄。ぐ。り。人。々。十。餘。人。を。率。律。く。郡。内。の。地。を。赴。こ。る。然。り。と。  
 小。山。回。友。を。誘。抗。佐。誓。ハ。先。達。く。郡。内。に。帰。り。軍。城。ま。ま。准。後。を。な。し。備。又。  
 四。弟。務。頼。ハ。郡。内。を。た。轄。が。深。み。小。松。の。郷。に。陣。を。取。り。小。山。回。が。使。直。を。  
 侍。其。周。に。右。大。后。信。長。公。ハ。岐。阜。城。中。小。ま。り。く。ら。る。が。佐。忠。卿。より。使。者。を。  
 遣。り。軍。の。次。を。り。び。に。赤。仁。科。信。盛。毎。が。誠。を。愧。る。右。府。大。小。護。ま。を。玉。  
 ひ。これ。を。岐。阜。山。下。の。長。柄。河。原。に。樞。門。せ。り。浩。り。々。る。か。ど。小。信。忠。卿。ハ。諏。訪。  
 と。う。ち。費。甲。府。ふ。入。軍。し。一。条。義。人。が。館。を。と。り。これ。を。本。陣。と。定。め。り。れ。武。田。  
 家。坂。老。の。猪。勇。士。を。或。ハ。殿。提。り。或。ハ。降。ら。せ。甲。信。後。野。於。こ。る。誠。回。家。に。  
 魔。う。ぬ。者。ハ。り。く。さ。る。が。く。轄。門。小。市。を。あ。し。り。備。又。務。頼。主。後。ハ。小。松。の。郷。小。  
 澤。留。し。て。小。山。回。が。途。今。や。来。り。と。六。七。日。を。待。と。い。ふ。も。更。ふ。其。沙。汰。あ。る。を。



土屋惣藏  
憤馳  
跡部大炊助  
を射殺す



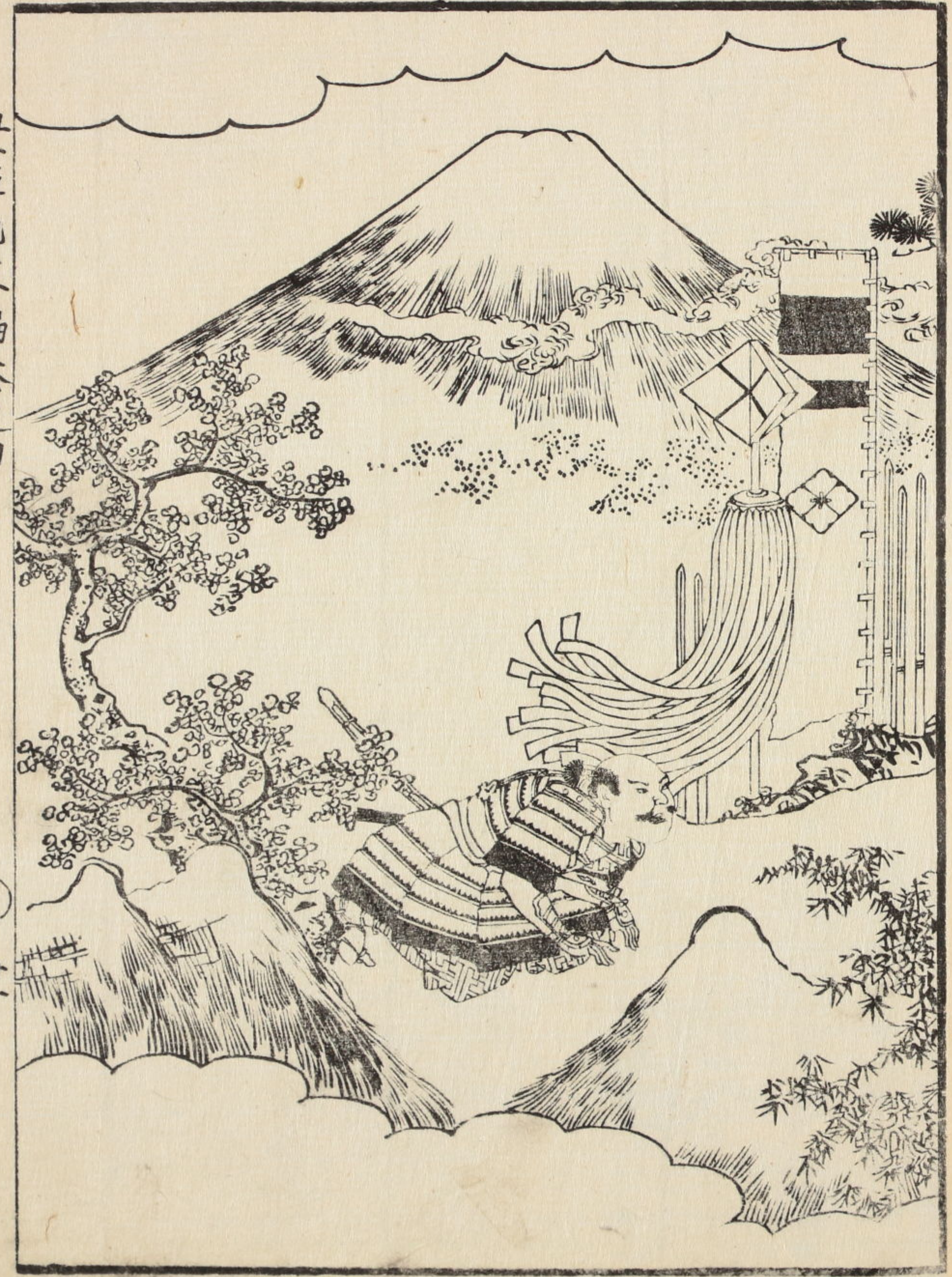


こと。まより報せし信殺されば。務が瀬の那夜なる。條子の殺不に。冊を結ひ  
 防衆の准儀を疎重く殺け。然して其夜の月落る。劍領。務頼が陣小瀬  
 投り。自己が人質に出し。色する。妻子を奪ふ。去る。帰る。勝頼それを知る  
 よりも。發逆。まき。願志を發し。罵り叫ぶ。悔ひを遅く。今更真田が  
 後約を思慕し。約柄まき。逃さる。府中を出る。その初。八百餘人の從者  
 ありし。もつ。の。際。ふ。ろ。落。共。て。今。僅。に。四。十。餘。人。ぞ。残。り。ける。中。に。も。悪。さ。に  
 譜代の寵臣長坂。誅部の友人あり。主君の果運を憂ふ。て。いつ。夫。に  
 や。つ。へ。ご。う。た。れ。ば。適。さ。ま。し。と。去。屋。惣。藏。弓。矢。推。把。逃。竊。さ。る。務。頼。を。れ  
 杜陰。誅部が逃竊。後身。それ。と。つ。り。より。惣。藏。賺。さ。る。持。つ。る。弓。に。夫。を。推  
 一。飛。地。放。さ。る。誤。さ。る。大。杖。分。が。首。筋。を。領。の。下。ま。を。射。抜。さ。り。馬。より。落。る。を  
 征侍。首を斬断。ち。帰。れ。ば。務。頼。肝。胆。を。輕。げ。遠。上。り。や。適。さ。る。道。な。し。

恥彼ら。向小生。害せんと。四十餘人の。至。後。が。ま。ご。宵。ま。に。三。月。十。日。田。野。の。郷  
 へ。逃。さ。る。後。小。宮。田。家。譜。代。の。忠。臣。小。宮。山。内。信。正。と。不。者。あり。し。誅。部。長  
 坂。と。不。和。さ。る。成。り。て。遂。小。務。頼。の。不。興。さ。り。け。宴。の。身。と。る。り。在。り。む。さ。ふ  
 遠。遭。儀。田。の。大。軍。甲。州。の。地。小。丸。入。り。て。勝。頼。危。急。と。駭。う。り。も。内。宿。一。個  
 蹟。を。慕。ひ。田。野。の。郷。へ。來。り。視。ま。す。呼。宴。さ。り。や。主。君。の。零。相。今。稍。年  
 飯。の。準。儀。と。り。え。さ。る。時。小。隙。の。規。編。ハ。若。令。の。卷。に。も。増。さ。る。涙。を  
 ぬ。り。納。ま。す。去。屋。惣。藏。出。迎。ひ。連。ふ。面。を。觀。合。せ。り。九。右。の。不。慮。さ。詞。も。な  
 く。要。討。ハ。悲。嘆。に。沈。ま。り。が。内。膳。去。屋。ふ。り。ち。響。ひ。小。長。去。屋。率。論。し。と。  
 君。の。缺。藉。を。被。し。より。時。節。を。清。く。清。和。解。せ。ん。宜。使。と。也。と。昨。日。を。待  
 甲。斐。も。か。れ。遠。遭。の。落。着。切。め。く。の。り。に。清。最。期。の。所。供。せ。ん。と。推。察。せ。り。  
 這。有。よ。さ。に。調。言。ま。へ。と。駭。く。惣。藏。感。嘆。し。呼。金。鉄。の。忠。臣。を。腹。心。と



勝頼父子  
没落<sub>し</sub> 菴<sub>こ</sub>  
小宮山  
兄弟  
孝忠と  
全ふす





おりふ意匠の遠期不及びく意く。逃難きたるその中に、缺履を被る  
 身ながらも、主君を慕せぬと。其忠信を感ぜられた。故に涙の止る期に  
 實情より喜ぶ。悲歎するに、不意熱の涙混して、零る機曾か  
 ら。内儀が身又七糸、同く美泉の供せんと。此地小来りて、預入る傍頼  
 て大に執び、よくも極ひし。忠兄義弟、快呼寄る。初は法蓮、兄の志りへ  
 に、跪くを内儀弟と。願え、それ解る。胸某許に、老母の勅、汝頼  
 る。ふ、何となく、此の来りし。忠義へ、然ることなり。といふも、一月をりて、忠  
 孝を、今よする。解あてを、それ見せ、左右小釋別。忠孝二道、せり  
 人と。我の主君に、最期の存候し。舍身の忠を、兼人といふ。汝の老母を、養物  
 して、兄の孝義を、兼る。ふ、何となく。浩る。別澄の源延尉の、臣家、終本、龜  
 井見、身が、故事も、ある。ものを、汝、快く、這地を、去。孝を、竭して、老母、汝、誓ひ。

家名をも亦相續せよと。説教ると又七糸、兄の作せし、然る事、ひが。老  
 母も、深く、主君の、御身と、慕ひ、まつ。せ、嘆又七糸、兄の、孝志を、も。こと、ふ、  
 ら、称と、汝も、武田の、後子と、し。又、か、れ、君の、御、最期、小、ま、ま、志、恩の  
 罪、種、う、く、汝を、滅、遠て、その、後、小、孝を、竭、と、か、人の、道、り。母、の、回、野、に、身  
 を、過、せ、バ、唯、一、乃、木、の、杖、わ、き、バ、老、を、杖、に、於、是、わ、り。汝、の、速、く、回、野、小、到  
 里、主、君、の、御、身、と、速、と、見、徹、よ、と、作、せ、汝、う、け、く、兼、り、し。是、非、御、供、を  
 と、預、入、小、也。傍、頼、ま、し、く、感、信、せ、れ。躬、零、落、る、傍、頼、と、共、小、我、死、を  
 さん、汝、義、志、神、妙、ふ、い、り、ぬ、ま、と、其、の、忠、の、を、以、て、孝、小、肯、なり。今、又、七  
 が、身、に、就、て、予、が、恃、む、面、を、一、束、あり。武田の、家、運、既、盡、て、若、御、父、子、が、自  
 害、せ、バ、武田の、家、名、の、滅、せん、こと、嘆、ま、す。も、從、餘、り、あり。今、此、よ、は、は、つ、  
 伯、母、が、若、一、個、の、甥、あり。な、ま、と、七、糸、を、御、殘、家、名、相、續、せ、せ、し。汝、命、を



今よりして真田昌幸が許小判り。我遺言傳所せ物せり遠長田の家。の  
 新さるやうに料理せ。予款の漢是さなり。汝も忠志を堅ふして真田こ  
 供にちやうを協さ。忠孝共ふ令こころんや。是勝頼が最期の供ふ百倍  
 ましうる功なりと。理を竭されく又七帛も。君命吾背に道ひけし。止む  
 事とえびこれを領受し。遺帖と初子と成。決意に請執せりくも。君先  
 諸友に離別せ。若再老母が許小返り。怪しに及ふ初子と老母を押納身を  
 やりして。上州吾妻へ流し。忠孝全保の勇なり。勝頼今心寧  
 し。悦ぶ間も嵐ふつ。ききく所も。探太鼓。頼く小山田信繁が。春内を  
 く。むに投する。織田家の先達瀧川。河尻雲霧の像く推進る。胸内  
 膝進る。出馬場信房が。遠言ふも。當在危急の期。子即ち。く。款を拒  
 抗地。天目山こそ究竟なれ。と。東へ。疎く。い。バ。快く。那山へ。搬登せり。と。

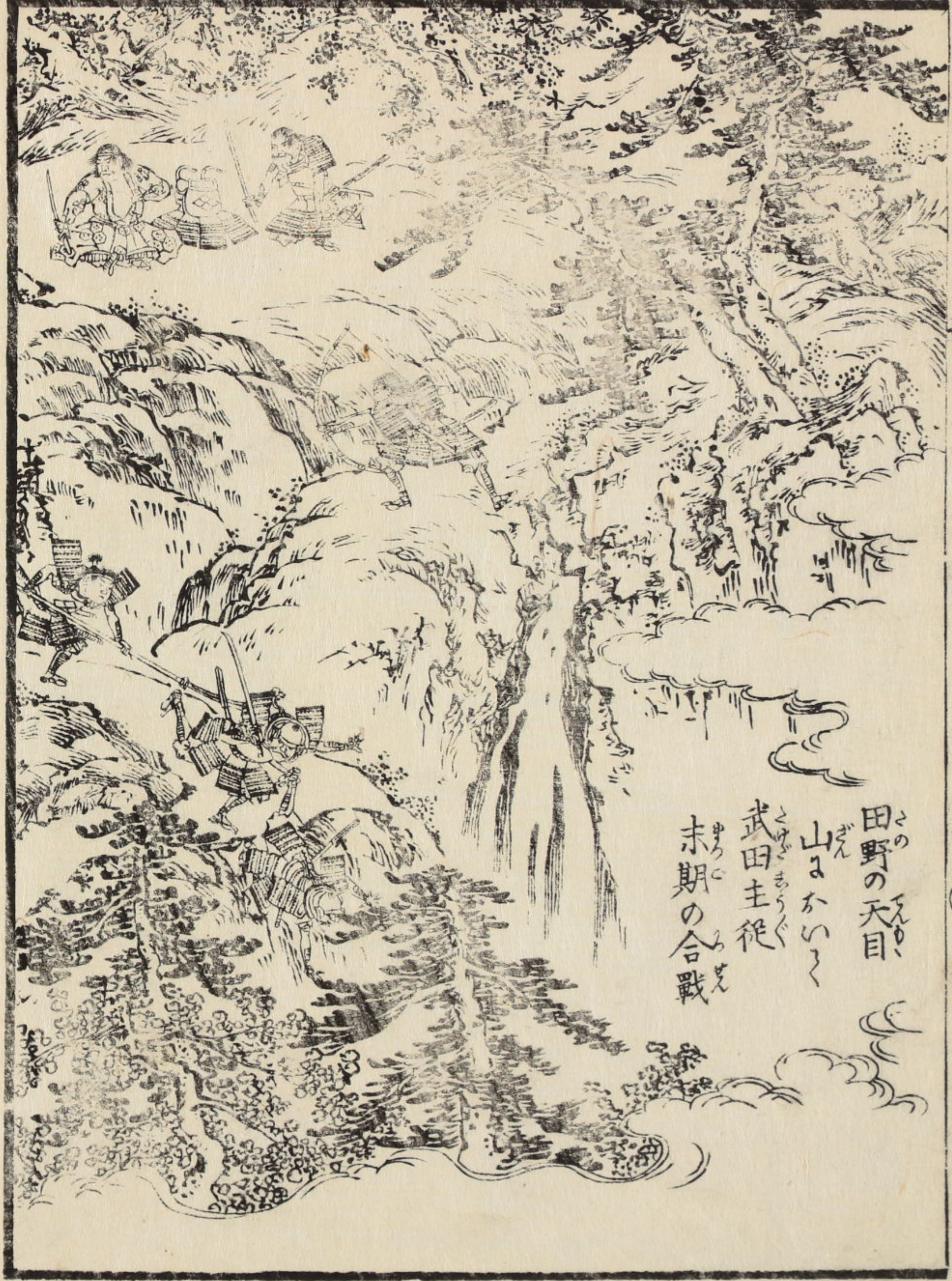
初め小笠原同意し。山梨那田野の奥なる。天目山小邊投たり。升もい山  
 二條の細徑あり。と。い。とも。樵史の通ふの。なれば。大軍競く。登り。く。歩  
 卒の素走する。を。ゆるの。左右へ。減く。する。純壁。し。く。徑に。傍たる。急流。ゆり  
 流出して。前踏を。遮る。後ふ。究竟の。絶崖。なれば。馬場信房も。武田の家  
 運せ。初こ。を。り。と。未前に。突り。預て。主膳に。教ふ。して。天目山を。死場と  
 遺治せり。山梨那野に。れ。ども。慶徳院の。代敷。不属。なり。上。事。三。余。丁。路。小。勝。る。の。あり。此。河。を。海  
 へ。り。今。の。度。不。して。勝。頼。主。殿。死。せ。と。い。ふ。  
 勝頼主従戦死。天目山。一属。秀吉。説降。  
 一抄の水。十人の。渴。を。止。治。せ。り。半。蓋。の。油。の。長。夜。を。明。さ。ふ。是。く。は。と。い。ふ。  
 も。方。僅。武。田。家。の。田。十。餘。人。義。氣。激。流。を。以。遮。ふ。登。れ。ば。儉。涸。小。橋。く。款。を  
 侍。ふ。み。ご。怖。處。り。人。や。然。わ。く。小。邊。田。の。先。進。小。山。田。が。子。の。素。因。小。邊。



て。天目山を推提圍之。城を作りて軍威を顯す。然も決死の武田勢とに  
も駿業くものみく。先秋年を造る人。河部加賀守。秋山氏初同孫又并  
小山田平左衛門同孫助。秋後作義。又ふ六人。正一文字に藤へ龍下。川小  
當て款せす。それと着より河尻與之衛。自勢二子餘人。小指探分。川を  
沿して攻寇を。水涉るを看より。六騎一渡に橋夫をく。二千餘人を  
そのと日せ。濁まくり。に龍殺し。けき。遠猛風。みや怖ま。人た。あ  
撥と推流さ。那岸ふあり。滋川を。それ許を。と横際より。死深布  
の岩うつ。儼く。面た。石。不回に。棚と。寇ま。河部。秋山。侮い。ま。く。激し  
よく。猛ま。起。鎬。脱。斬。外。一。たる。血。骸。小。白。源。と。ち。ま。ち。米。に。愛。下。流。る  
不見。ハ。秋。風。小。吹。流。さ。り。龍。田。の。河。に。紅。葉。散。布。を。り。り。り。六。勇。並。列。以。我  
る。と。初。の。如。く。り。り。と。い。と。も。活。活。ひ。た。れ。バ。一。足。を。ら。ん。澄。く。呼。ぶ。と。ま

我死に遂平ぬ。猶小業より河尻。龍川。喚叫。と。攻。登。る。勝。頼。こ。れ。を。着。と  
む。う。く。太。刀。お。振。り。魁。と。ま。ま。今。こ。を。父。小。お。と。ま。と。嫡。子。を。并。源。の。位  
傳。生。年。二。つ。つ。十六。歳。最。英。裝。に。お。扮。て。葛。地。に。突。て。下。る。土。屋。忠。義。佐  
昌。ハ。濤。全。孫。の。り。推。把。と。は。り。初。に。つ。あ。瞬。々。際。小。十。八。人。の。款。せ。村。例  
し。崩。子。盡。ま。は。た。も。さ。り。た。刀。を。脱。し。龍。籠。の。雲。打。鳴。を。猛。威。を。發  
し。石。小。橋。を。く。左。に。倒。し。山。谷。を。僅。や。崩。も。ま。る。と。疑。ふ。り。に。烈。戦。ひ。ま。  
こ。ま。小。繼。つ。く。秋。山。源。藏。金。九。助。六。多。田。新。藤。同。南。助。小。宮。山。内。騷。水。原。丹  
後。秋。山。九。傳。吉。同。三。十。布。温。井。常。隆。助。小。笠。原。下。徳。吉。同。熱。十。布。伴。刑  
初。の。補。岩。下。君。を。ち。傳。友。義。安。西。平。左。衛。門。其。利。末。女。西。宮。儀。部。石。根。大  
孫。安。田。十。布。左。衛。門。河。村。又。左。衛。門。其。外。大。龍。寺。の。麟。南。和。尚。その。子。圓。庵。主  
な。ご。の。小。業。又。官。健。小。八。山。名。源。義。山。下。空。助。水。井。小。助。推。名。新。藤。淺。浪。右







去湯多後四十有餘人。岩肩樹股以之。露是石を飛し木を抛落し。正志  
 以分つて拒抗する由。石尻水野。倭攻陣で。藤一親と。逃落する。時小瀨川一  
 益八軍。慮小賢之勇。士なれば。甲府の降人。过縁を。湯に。素内を。天目山の青  
 路の方より。攻陣す。高院。教百。敵半。蒐く。隙。隙河を。せ。以。遂。攻。せ。了。了。得  
 以。獲。之。武。田。の。勇。士。最。後。の。敵。に。防。禦。の。術。つ。き。運。命。今。今。こ。れ。を。を。り。と  
 て。去。居。秋。山。小。宮。山。勝。頼。父。子。の。最。後。と。同。護。し。心。靜。に。壯。剛。ら。せ。四。十。六。人  
 殘。り。ぬ。く。會。一。船。小。我。死。し。たり。時小勝頼三十七才。法号と。慶徳院。教頼山。勝公と。二。元  
 う。を。い。妻。と。う。て。の。後。に。生。辰。是。勝。頼。あり。ま。に。勝。頼。の。信。玄。の。御。母。尊。麻。務。頼。重。と。歎。叙。し。其。女。を  
 亡。國。の。子。と。い。ひ。一。身。一。任。務。奉。十。六。才。居。居。義。共。七。才。也。 然。れ。バ。勝。頼。父。子。の。敵。ハ。瀧。川。元。近。こ。れ  
 を。捉。直。以。甲。府。一。碗。里。々。れ。バ。信。忠。御。實。檢。あり。て。又。右。大。臣。の。許。へ。遣。る。は  
 遠。响。ま。を。以。信。長。公。ハ。信。則。根。羽。ま。を。出。陣。あり。し。が。勝。頼。父。子。の。敵。を。清。流  
 と。踏。る。を。う。り。に。歎。び。の。ひ。諸。將。の。軍。功。を。亦。感。あり。を。れ。う。り。飯。田。一。清。陣

を。撤。降。され。勝。頼。信。勝。信。豊。信。登。四。級。の。敵。を。京。都。に。の。せ。せ。く。樞。門。に。東  
 ら。を。然。し。て。同。月。十。七。日。を。遠。の。城。へ。入。清。み。さ。し。め。清。父。子。對。面。し。り。り。  
 其。の。圍。之。美。田。安。房。吉。昌。春。ハ。勝。頼。父。子。と。戦。は。り。す。卒。城。を。入。と。約。せ。り  
 かつ。先。達。て。若。妻。に。退。に。准。備。を。印。し。く。清。と。り。り。小。宮。山。又。七。弟。其。弟。を  
 宴。し。て。適。所。勝。頼。が。遺。帖。を。出。し。小。山。田。信。親。衆。が。逆。心。う。り。天。目。山。の。賞。情。を  
 で。洞。と。共。小。彈。り。す。小。七。昌。春。深。く。發。嘆。ひ。り。あ。ま。く。の。悲。涙。に。沈。し。く。後。悔。を  
 とも。冷。む。け。し。む。武。田。再。興。の。源。慮。せ。り。し。ま。ら。信。則。一。移。ら。ん。と。若。妻。の  
 城。を。穴。山。小。助。小。助。與。置。上。田。の。城。へ。三。載。く。又。子。謀。畧。小。心。を。傾。け。敵。を。誘。く  
 の。准。備。を。な。す。清。を。を。為。小。織。田。の。大。軍。後。遠。之。の。加。勢。を。合。せ。く。十。二。万  
 餘。騎。を。十。面。小。費。列。候。息。を。も。次。せ。攻。る。と。い。ふ。智。勇。絶。倫。の。美。田。又  
 子。奇。謀。妙。計。あり。り。し。術。を。こ。う。て。拒。抗。する。に。せ。四。方。の。遠。を。り。か。た。り。し。



損亡すること貞誠を知りて。数度彼軍に及びしを任若大に憤烈なり。蓋て  
 奮奮と奮るの志。忙然として在り。諸る處に羽柴秀吉。將軍出馬。元行熱  
 勞。川の秀勝。具足叔に。兎嶋の軍。勝利せし。言状として。奉後し。なれを。  
 信長公欣悦せし。是に對面。向ふ。甲信の軍。志禪ら。進。次。小。吉。向  
 防。我の。始終。と。羽。柴。に。苦。多。い。城。攻。め。回。り。之。も。秀。吉。要。附。洗。吟。色。  
 實に。甲。陽。の。美。田。又。子。の。智。勇。無。雙。の。者。と。なり。然。る。も。主。人。の。先。達。を。も  
 認。決。は。兵。城。小。懸。り。降。参。も。せ。ば。君。一。款。對。は。す。ら。る。べ。し。玄。熱。と。り。た。こ。ら。ふ  
 こそ。必。竟。不。存。の。所。ら。ん。那。般。の。款。小。向。と。せ。る。ふ。て。自。軍。を。損。ひ。忍。ぶ。こ  
 と。六。軍。中。小。忌。と。い。つ。ら。り。宜。し。く。和。せ。り。降。参。せ。り。め。美。田。が。如。き。英。雄  
 と。而。自。方。と。る。し。の。い。ふ。向。後。の。所。幫。補。大。さ。る。べ。し。乃。是。に。小。料理。を  
 人。美。田。の。事。の。只。當。に。所。任。せ。し。と。思。は。れ。言。状。を。信。長。公。書。不

棄かれども。謀士の初め。然止せり。秀吉に同意し。これより。羽柴  
 秀吉。降。参。し。智。勇。を。知。り。し。り。中。遂。に。真。田。を。降。服。さ。す。右。大。臣。を。初  
 め。の。せ。り。美。田。の。家。督。真。田。父。子。が。本。領。安。徳。の。朱。印。を。乞。受。再。び。昌。吉  
 に。對。面。し。て。朱。印。を。通。与。右。大。臣。の。從。意。を。法。も。ら。ふ。舒。所。え。り。れ。ば。昌。吉  
 喜。悅。斜。り。し。づ。瑞。子。源。次。希。信。幸。を。伴。ひ。秀。吉。に。隨。ふ。と。而。は。陣。に。奉  
 降。し。な。く。所。謝。報。さ。り。し。あ。は。れ。り。次。男。源。三。希。幸。村。に。正。年。十。八。歳。小。し  
 る。蓋。世。の。器。量。補。天。の。才。智。あり。な。れ。ば。秀。吉。の。相。の。凡。ら。り。さ。り。に。威。服  
 ぬ。し。遂。に。若。長。の。物。を。結。り。是。小。お。い。と。甲。信。一。圓。小。平。物。一。け。き。不。食。せ。れ。く  
 物。を。奉。り。恩。賜。せ。り。個。々。小。の。洗。門。左。を。將。監。上。野。一。羽。分。ら。び。信。則。依。久。小。藤。河。流  
 與。長。湯。甲。が。を。れ。ぬ。り。肥。後。勝。原。信。則。の。因。更。科。年。三。羽。分。ら。び。信。則。依。久。小。藤。河。流  
 其。外。軍。切。の。次。等。に。より。あ。ち。り。く。恩。賞。所。せ。り。れ。本。曾。在。馬。頭。我。留。小。平。物



安達の起發を避る中、瀧川一益ハ遠達の勳功莫大なりとて甲州  
 里約小産牧たる七寸に餘る後、是あり毛拵さながら朱の像く、関雲長  
 赤免馬に警聲し、れば海老駒と号け、最秘器の逸物なりと。右府自  
 一益を召させしむ。汝、教奉の功、何事と。恩賞をりて報と。さうし、遠達  
 ハ別々、功勞多し。遠達是に誇りて、入國せしと命せある。是より、瀧川上野  
 なる。麻橋の嶽、小居住して、關本、小條の、厥守たりとむ。斯の如く、甲信上、武後  
 遠征、彈と七ヶ國、政道のころ、命賜され。四月二日、信州を、遠を、沖發、駕の  
 里、翌日、甲府に、入、まひぬ。

繪本豊臣勳功記五編卷之四終



